

2015年度秋学期 応用数学（解析） 第6回

第2部・基本的な微分方程式
変数分離形の変形

浅野 晃
関西大学総合情報学部



変数分離形（復習）

変数分離形

一般には $g(x)x' = f(t)$

$x' = \frac{dx}{dt}$ とすると $g(x)dx = f(t)dt$

両辺それぞれを
積分すると $\int g(x)dx = \int f(t)dt + C$

一般解に含まれる積分定数 C は、
初期値を代入して定まり、特殊解が得られる

今日は、変形によって変数分離形に持ち込める方程式です

1. 同次形

同次形

一般には $\frac{dx}{dt} = f\left(\frac{x}{t}\right)$ x/t の式になっている

$\frac{x}{t} = u$ とおくと $x = ut$ この両辺を微分 $\frac{dx}{dt} = t \frac{du}{dt} + u$
積の微分

よって $t \frac{du}{dt} + u = f(u)$

$$\frac{1}{f(u) - u} du = \frac{1}{t} dt$$

変数分離形になった

2015年度秋学期

5

同次関数

関数 $M(x, t)$ が k 次の同次関数であるとは

$M(ut, t) = t^k M(u, 1)$ の形になっていること
 t^k をくり出せる

微分方程式が $\frac{dx}{dt} = \frac{M(x, t)}{N(x, t)}$ の形で

M, N がどちらも k 次の同次関数なら, $x = ut$ において

$$\begin{aligned} \frac{dx}{dt} &= \frac{M(x, t)}{N(x, t)} \\ &= \frac{t^k M(u, 1)}{t^k N(u, 1)} = \frac{M(u, 1)}{N(u, 1)} = \frac{M\left(\frac{x}{t}, 1\right)}{N\left(\frac{x}{t}, 1\right)} \end{aligned}$$

前ページの
形になる

2015年度秋学期

6

例題

$x' = \frac{t-x}{t+x}$ を解いて, 一般解を求めよ。

分母分子を t でわると $\frac{dx}{dt} = \frac{1 - \frac{x}{t}}{1 + \frac{x}{t}}$ 同次形

$\frac{x}{t} = u$ とおくと $x = ut$ より $\frac{dx}{dt} = t \frac{du}{dt} + u$

よって $t \frac{du}{dt} + u = \frac{1-u}{1+u}$

$$\frac{1}{\frac{1-u}{1+u} - u} du = \frac{1}{t} dt \quad t \text{ と } u \text{ を分離}$$

$$\frac{u+1}{u^2+2u-1} du = -\frac{1}{t} dt$$

2015年度秋学期

7

例題

$x' = \frac{t-x}{t+x}$ を解いて, 一般解を求めよ。

微分の関係に
なっている $\frac{u+1}{u^2+2u-1} du = -\frac{1}{t} dt$

ここで $u^2 + 2u - 1$ の微分が $2(u+1)$ になるから,
上の式の両辺を積分すると

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \log(|u^2 + 2u - 1|) &= -\log|t| + C && \text{対数の和} \rightarrow \text{真数の積} \\ \log(|u^2 + 2u - 1|) &= \log(A|t|^{-2}) && \text{対数の} \circ \text{倍} \rightarrow \text{真数の} \circ \text{乗} \\ t^2(u^2 + 2u - 1) &= A \end{aligned}$$

定数は任意なので, 絶対値が外れる

$$u = \frac{x}{t} \text{ に戻すと } x^2 + 2tx - t^2 = A$$

2015年度秋学期

8

2. 1 階線形

9

1 階線形微分方程式

一般には $\frac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)$ の形になっているもの

$p(t) = \exp(\int P(t)dt)$ と置くと,

一般解は $x = \frac{1}{p(t)} \left(\int p(t)Q(t)dt + C \right)$

なぜならば

$$(p(t)x)' = (p(t))'x + p(t)x' \quad \text{積の微分}$$

$$= \left[\exp \left(\int P(t)dt \right) \right]' x + p(t)x'$$

$$= p(t)P(t)x + p(t)x' \quad \text{指数の合成関数の微分}$$

$$= p(t) \{ P(t)x + x' \} = p(t)Q(t)$$

よって、両辺を積分して $p(t)x = \int p(t)Q(t)dt + C$

2015年度秋学期

10

例題

$x' + x = t$ を解いて、一般解を求めよ。

$\frac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)$ にあてはめると $P(t) \equiv 1, Q(t) = t$

よって $p(t) = \exp(\int P(t)dt)$ とすると $p(t) = \exp(\int 1dt) = e^t$

前ページの式から $p(t)x = \int p(t)Q(t)dt + C$

$$e^t x = \int e^t t dt + C$$

部分積分

$$= e^t t - \int e^t dt + C$$

$$= e^t t - e^t + C$$

$$x = t - 1 + Ce^{-t}$$

2015年度秋学期

11

2'. ベルヌーイの 微分方程式

12

ベルヌーイの微分方程式

一般には $\frac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)x^n$ の形 ($n \neq 1$)

$u = x^{1-n}$ とおくと 1 階線形微分方程式に変形できる

なぜならば

$$\frac{1}{x} + P(t) = Q(t)x^{n-1}$$

両辺を微分する

$$\frac{u'}{u} = (1-n)\frac{x'}{x}$$

代入

$$\frac{1}{1-n} \frac{u'}{u} + P(t) = Q(t) \frac{1}{u}$$
$$u' + (1-n)P(t)u = (1-n)Q(t) \quad \text{1 階線形}$$

今日のまとめ

同次形
1 階線形
ベルヌーイ